鼓室形成術施行例における柴苓湯使用経験 (第2報)

秋定 健・折田 洋造・吉弘 剛・河合 晃充
ト部 吉博・武 浩太郎・奥本 香苗・日高 利美
栗飯原輝人・平井 滋夫

Clinical Evaluation of Sairei-to for Chronic Otitis Media and Cholesteatoma after a Tympanoplasty : Part II

Takeshi Akisada, Yozo Orita, Tsuyoshi Yoshihiro, Akimitsu Kawai,
Yoshihiro Urabe, Kotaro Take, Kanae Okumoto, Toshimi Hidaka,
Teruhito Aihara and Shigeo Hirai

(Kawasaki Medical School)

To evaluate the clinical efficacy of Tsumura Sairei-to in the treatment of chronic otitis media and cholesteatoma after a tympanoplasty, an open randomized trial study was performed on 12 patients. The efficacy rate on the ear drum and fascia was 66.7%, and the efficacy rate on the mastoid was also 66.7%. The efficacy rate against the overall subjective symptoms was 66.6% of the 12 patients significant effects were observed in five patients (41.7%), slight effects were observed in another five patients (41.7%), and no noticeable effects were observed in two patients (16.7%). The general efficacy rate for the 12 patients treated with Tsumura Sairei-to was 83.4%. No side effects were noted in any of the patients, so the general usefulness rate was also 83.4%. These results suggest that Tsumura Sairei-to is clinically effective as an oral therapy against chronic otitis media and cholesteatoma after a tympanoplasty.

Key words : Sairei-to, tympanoplasty, clinical effects

はじめに

柴苓湯は小柴胡湯と五苓散の合方で、利尿作用、抗炎症作用、抗アレルギー作用を有し、耳鼻咽喉科領域ではその利水作用から滲出性中耳炎などに多く使用されている。我々は鼓室形成術を施行した慢性および真珠腫性中耳炎症例に術後ツムラ柴苓湯を投与し、非投与群に比べて、鼓膜・筋膜の状態と、自覚症状において明らかに良好な結果を得た。今回、柴苓湯投与群の症例数を追加してさらに検討を加えたので報告する。

方 法

平成9年1月から5月までに、当科において鼓室形成

術 (open method) を施行し、術後柴苓湯を投与した慢性および真珠腫性中耳炎症例の7例と前回の5例をあわせて12例について検討した。今回は乳様突起削開部の状態も観察するため、closed method の症例は除外し、再手術例も検討に加えなかった。それぞれの症例背景は表1に示した。柴苓湯は、手術翌日から1日9g分3にて退院日まで食前経口投与し、併用薬剤は原則として抗生剤のみとした。また柴苓湯投与に際しては証は考慮していない。判定項目はA:鼓膜・筋膜所見, B:乳様突起削開部所見, C:自覚症状, D:聴力検査とし(表2), AからCの項目は手術当日から1週間毎に評価した。それぞれを一, +, ++と判定し, 0点, 1点, 2点とし, 平

表1 患者背景(12例)

年 齢	17歳～78歳, 平均44.4歳
性 別	男性9例, 女性3例
疾 患	慢性中耳炎5例, 真珠腫性中耳炎6例, 好酸球性肉芽腫1例
術 式	Wullstein I型6例, II型4例, III型コルメラ1例, IV型コルメラ1例
合併疾患	肝炎1例, 尿崩症・下垂体腺腫1例

表2 判定項目

A. 鼓膜・筋膜所見	
浮腫・炎症(発赤)・感染・出血・混濁・穿孔(－, ＋, ＋＋で判定し, それぞれ0, 1, 2点として計算)	
B. 乳様突起削開部所見	
炎症(発赤)・感染・出血(Aと同様に判定)	
C. 自覚症状	
耳閉塞感・自声強聴・耳鳴・搔痒感(Aと同様に判定)	
D. 術前・術後の聴力検査	
A～Cの各項目は手術当日から1週間おきに評価	

表3 判定方法

A～C		
著 効	: 1 週以内に全項目が消失	+ 3
有 効	: 2 週以内に全項目が消失	+ 2
やや有効	: 3 ～ 4 週以内に全項目が消失	+ 1
効果不明	: 5 週以内に全項目が消失	± 0
不 変	: 5 週以後も 1 項目以上継続する場合	－ 1
悪 化	: 新たな所見・症状の出現を認めた場合	－ 2
D		
術後聴力	: 10 dB 以上改善	+ 1
	±10 dB	± 0
	10 dB 以上悪化	－ 1

表4 総合判定

全般有効度	1. 著 効: 9～
	2. 有 効: 6～8
	3. やや有効: 3～5
	4. 効果不明: 0～2
	5. 悪 化: -1～
全般有用度	1. 極めて有用
	2. 有用
	3. やや有用
	4. どちらとも言えない
	5. 好ましくない

均してグラフ化した(図1, 2, 3, 4). 項目別の効果判定方法は, 表3に示すようにAからCは著効から悪化まで判定し点数化した. 術前術後の聴力の変化についても点数化し, 合計点で総合判定を行った. 全般有効度と, 副作用の有無を含めた全般有用度を判定した(表4).

結 果

術後経過

A. 鼓膜・筋膜所見(図1)

投与1週目(初交換日)は出血を多く認め, 次いで炎症, 浮腫, 混濁の順に多く所見を認めたが, 2週目からはほとんどの所見が速やかに改善し, 5週目にはすべての観察項目が正常化している.

B. 乳様突起削開部所見(図2)

投与1週目は出血, 炎症を認めたが, 2週目からは徐々に改善しており, 5週目にはすべての観察項目が正常化している.

C. 自覚症状(図3)

投与1週目は耳痛, 搔痒感などが認められたが, 2週

図1 術後経過: A. 鼓膜・筋膜所見

図2 術後経過: B. 乳様突起削開部所見

図3 術後経過：C. 自覚症状

目から徐々に改善している。しかし、2例で術前から認められた耳鳴が6週目まで残存したため、症状の残存として認められた。A, B, Cの推移を図4に示したが各観察項目とも同様の経過で改善しており、明らかな特徴は認められなかった。

D. 標準純音聴力検査

術前・術後で聴力の改善, 不変, 悪化がそれぞれ4例ずつであり, 明らかな特徴は認められなかった。

次に, 表3の判定法に従い各項目の効果判定を行った。
A. 鼓膜・筋膜所見は著効1例(8.3%), 有効7例(58.3%), やや有効3例(25.0%), 効果不明1例(8.3%)で有効以上を有効率とすると66.7%で, やや有効以上では91.7%であった。
B. 乳様突起削開部所見は著効1例(8.3%), 有効7例(58.3%), やや有効2例(16.7%), 効果不明2例(16.7%)で有効率66.7%で, やや有効以上は83.3%であった。
C. 自覚症状は著効6例(50.0%), 有効2例(16.7%), 効果不明1例(8.3%), 不変3例

(25.0%)で有効率66.7%であった。
D. 聴力検査は改善4例(33.3%), 不変4例(33.3%), 悪化4例(33.3%)であった(図5)。全般有効度は有効5例(41.7%), やや有効5例(41.7%), 効果不明2例(16.7%)で, やや有効以上を有効率とすると83.4%と高率であった。また柴苓湯によると思われる副作用は認められず, 全般有用度は有用5例(41.7%), やや有用5例(41.7%), どちらとも言えない2例(16.7%)で, やや有用以上を有用率とすると83.4%と高率であった(図6)。

考 按

柴苓湯は小柴胡湯を骨格に五苓散を料として合わせて創られた合剤で, 西洋医学的には抗アレルギー作用, 抗炎症作用, 利尿作用を示すことからステロイド剤が適応となる各種疾患に應用されている。耳鼻咽喉科領域ではメニエール病や, ステロイド依存性感音難聴, 滲出性中耳炎, アレルギー性鼻炎などに使用されてきた。慢性中耳炎に対しての漢方製剤の使用については鎌田¹⁾の報告があるが, ほとんど検討されていない。我々は滲出性中耳炎に対する高い有効性と多くの報告にもとづき²⁾³⁾, また副鼻腔炎術後の頬部腫脹への有効性⁴⁾も参考にして, 鼓室形成術後の症例に柴苓湯を投与し前回報告した⁵⁾。非投与群と比較して乳突洞, 乳突蜂巣の所見は有意な差を認めなかったが, 鼓膜, 筋膜所見は明らかに柴苓湯投与群で非投与群に比べて改善していた。これは柴苓湯の持っている抗炎症作用も働いているが, さらに水毒, 即ち体内に溜まった水分の調節を行う五苓散の作用が強く働き鼓膜, 筋膜所見を改善したと考えた。また自覚症状は柴苓湯投与群で術後早期から明らかに改善しており,

図4 術後経過

A. 鼓膜・筋膜所見

著 効 1 例 (8.3%)	有 効 7 例 (58.3%)	やや有効 3 例 (25.0%)	効果不明 1 例 (8.3%)

B. 乳様突起削開部所見

著 効 1 例 (8.3%)	有 効 7 例 (58.3%)	やや有効 2 例 (16.7%)	効果不明 2 例 (16.7%)

C. 自覚症状

著 効 6 例 (50.0%)	有 効 2 例 (16.7%)	効果不明 1 例 (8.3%)	不 変 3 例 (25.0%)

D. 聴力検査

改 善 4 例 (33.3%)	不 変 4 例 (33.3%)	悪 化 4 例 (33.3%)

図 5 項目別効果判定 (n=12)

全般有効度 (n=12)

有 効 5 例 (41.7%)	やや有効 5 例 (41.7%)	効果不明 2 例 (16.7%)

全般有用度 (n=12)

有 用 5 例 (41.7%)	やや有用 5 例 (41.7%)	どちらとも言えない 2 例 (16.7%)

図 6

これは我々の、CDDP の内耳毒性に対する柴苓湯の軽減作用の検討で⁶⁾、柴苓湯の蝸牛有毛細胞膜に対する保護作用が推定され、柴苓湯投与早期から内耳に対して脂質代謝改善、活性酸素産生抑制作用などが働き、耳閉感、自声強聴、耳鳴などの自覚症状の改善に有効に働いたと考えた。前回の検討をもとに、今回は症例を追加して、柴苓湯投与例のみで検討した。厳しい判定基準を設定したが、有効率は83.4%と非常に高率であり、柴苓湯の持

つ抗炎症作用、利尿作用が鼓室形成術後の状態に効果的に働いていることが充分推定される結果であった。今回は乳様突起削開部に対する有効率も高率であったが、これは田代⁷⁾が報告した柴苓湯や柴胡剤が持つ内因性のステロイド分泌を促進し、ステロイドの抗炎症作用を増強すると共に直接線維芽細胞増殖抑制作用により、炎症性疾患で肉芽形成を抑える働きが強く関与していると思われる。今回も証について考慮していないが、術後の治癒

過程が非常に早い症例が認められ、証が合えばさらに有効率が高くなることが推定され、今後引き続き検討を加えたい。

ま と め

今回我々は鼓室形成術を施行した慢性中耳炎および真珠腫性中耳炎症例に対して術後柴苓湯を投与し、自覚症状と乳様突起削開部、鼓膜、筋膜の術後状態について検討した。有効率は83.4%で、副作用はなく有用率も83.4%と高率であった。柴苓湯は鼓室形成術後の症例に投与してみる価値のある方剤と思われた。

参考文献

1) 鎌田慶市郎：慢性化膿性中耳炎。JOHNS 2: 1409~1413,

1986.

- 2) 大橋淑宏, 中井義明, 岡本英樹, 他：実験的滲出性中耳炎の粘膜病態と薬物療法—柴苓湯の効果に関する研究—。耳鼻臨床 85: 481~493, 1992.
- 3) 荻野 敏, 荻野 仁, 原田 保, 他：滲出性中耳炎のツムラ柴苓湯による臨床効果。耳鼻臨床 84: 1641~1647, 1991.
- 4) 渡辺建介, 中村 弦：副鼻腔炎術後の柴苓湯投与について—頬部腫脹への効果—。漢方医学 14: 22~24, 1990.
- 5) 秋定 健, 折田洋造, 佐藤幸弘, 他：鼓室形成術施行例における柴苓湯使用経験。耳鼻臨床 補92: 55~60, 1997.
- 6) 秋定 健, 折田洋造, 佐藤幸弘, 他：ハムスターにおけるCDDPの内耳毒性、腎毒性に対する漢方製剤の効果。耳鼻臨床 補89: 14~15, 1996.
- 7) 田代眞一：柴胡剤の抗炎症作用とステロイド様作用。腎と透析 別冊: 30~33, 1989.